

第23回 社会情報調査の方法に関する研究会

日時 2009年3月7日(土)

13時30分～17時30分

場所 札幌学院大学社会連携センター3F

テーマ 生きづらい労働現場を再考する

報告1 阿部真大 (学習院大学非常勤講師) (当時)

働きすぎる若者たち

— ユニットケアの光と影

ケアとは相互行為である。ケアについて語る際には、ケアを受ける側＝利用者だけでなく、ケアを提供する側＝ケアワーカーたちについても考える必要がある。理想のケアは、双方の満足度が高い水準で安定してはじめて可能となる。本報告では、従来の集団対応のケアに対する反省から生まれ、現在、急速に普及している「ユニットケア」という新たなケアの手法が、ワーカーたちの働き方にどのような影響を与えているのかを明らかにする。

報告2 大野正和 (大阪経済法科大学非常勤講師)

職場の生きづらさを探る

— タテとヨコのまなざし不安

日本では1990年代後半以降の、成果主義導入や非正規雇用の拡大などによって、職場の人間関係が混乱し摩擦と葛藤の中に投げ込まれている。その背景には、従来の濃密なヨコの協調関係を基礎とした職場集団が変容し、会社や上司による圧力的なタテの管理や査定が強まっていることがある。社会的な金融不安や雇用不安に取り巻かれながら、多様化した職場では仕事ぶりを「誰かに見られている」という不安が恒常化している。そのことを、客観的構造分析のみならず「存在論的不安」という概念をキーワードに読み解く。